

## 第7回 サクラ病理技術賞授賞式


本日は第7回サクラ病理技術賞授賞式ならびに受賞記念特別講演会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

『サクラ病理技術賞』は、病理学的検査・技術に関するさまざまな活動を支援する独自の褒賞制度として2008年に創設されました。その意義は、「病理標本作製技術を担う技師の方々へのモチベーションの一助」にあると考えております。研究論文は勿論のこと、日常業務での技術・知識の向上、後進技師の育成（技術の伝承）、地域医療への顕著な貢献というような活動も、その対象としております。将来にわたり病理標本作製技術を発展させることが最も重要な課題である限り、若い方々に標本作製の価値ある基礎技術を地道にしっかりと伝えていくようなことも、最先端の技術を使い病理標本作製に新しい道を切り開く探求と同様に価値のあることではないかと考えております。その思いが、この賞を始めた大きな理由でもあるからです。

今回の授賞式が、皆様方のさらなる交流の場となるよう、準備させていただきました。受賞者の皆様方へのお祝いとともに、どうぞごゆっくりとお過ごしください。

サクラファインテックジャパン株式会社  
代表取締役 会長

石塚 悟

 サクラファインテックジャパン株式会社

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル

TEL.03-5643-2630 URL.<http://www.sakura-finetek.com/>

L586.1506.500.D

## 第7回 サクラ病理技術賞授賞式 および 受賞記念特別講演会

日 時

平成27年6月20日(土)

14:00~19:00

会 場

メルパルク大阪

## 式 次 第

第一部 授賞式 14:00~15:40

- ・施設発表  
[病理標本作製における工夫]
- ・選考総評および表彰
- ・受賞記念プレゼンテーション

第二部 特別講演 16:00~17:00

- ・特別講演  
[人を育てる - "I am a teacher" という言葉に魅せられて -]

第三部 レセプション 17:15~19:00



## サクラ病理技術賞について

「サクラ病理技術賞」は、サクラファインテックジャパン株式会社が、病理技術者やその団体、研究者を対象として、学術研究のみならず地域活動や後進育成など幅広い活動の中から特に優れた成果を挙げられた方々を表彰する制度として2008年に創設したものです。

サクラ病理技術賞

**池田 聡** *Satoshi Ikeda*  
茨城県厚生農業協同組合連合会  
総合病院 土浦協同病院 臨床検査部

**【受賞理由】**  
ホルマリン固定組織切片を用いた分子病理技術(二重 *in situ hybridization* 法)の開発と応用ならびにその普及活動

奨励賞

**芹澤 昭彦** *Akifiko Serizawa*  
東海大学医学部付属病院  
病理検査技術科

**【受賞理由】**  
免疫組織化学・分子生物学的技術の精度維持、向上における活動と、神奈川県および全国における病理技術の精度管理と後進技師の育成など

これまでに受賞された皆様

※敬称略・所属は受賞当時の名称を記載

第1回（2008年度）

**サクラ病理技術賞**  
**滝野 寿** 名古屋市立大学大学院医学研究科 臨床病態病理学  
**川井健司** (財)実験動物中央研究所 病理病態研究部 分子形態研究室  
**特別賞**  
北海道臨床衛生検査技師会形態部門

第2回（2009年度）

**サクラ病理技術賞**  
**岩井宗男** 滋賀医科大学医学部附属病院検査部・病理部  
**大崎博之** 香川県立保健医療大学臨床検査学科  
**特別賞**  
社団法人 神奈川県臨床衛生検査技師会病理検査研究班  
**二反田隆夫** 鹿児島大学病院 臨床技術部・病理部

第3回（2010年度）

**サクラ病理技術賞**  
**鈴木孝夫** 昭和大学横浜市北部病院病理部  
**佐々木政臣** 大阪市立大学医学部附属病院病理部  
**奨励賞**  
**加藤智行** 浜松医科大学附属病院病理部  
**松本賞**  
**廣井禎之** 防衛医科大学校臨床検査医学講座

第4回（2011年度）

**サクラ病理技術賞**  
**百瀬正信** 信州大学医学部附属病院臨床検査部  
**奨励賞**  
**柳田絵美衣** 神戸大学医学部附属病院病理部 先端組織染色センター  
**東 学** 北海道がんセンター臨床検査科  
**松本賞**  
**清水秀樹** 日本医科大学千葉北総病院病理部

第5回（2012年度）

**サクラ病理技術賞**  
**山下和也** 北里大学病院病理部  
**古屋周一郎** 筑波大学附属病院病理部  
**奨励賞**  
**西川 武** 奈良県立医科大学附属病院病理部  
**石田克成** 国立病院機構浜田医療センター臨床検査科  
**松本賞**  
**小川勝成** 広島大学病院診療支援部病理検査部門

第6回（2013年度）

**サクラ病理技術賞**  
**磯崎 勝** 小田原市立病院病理診断科  
**奨励賞**  
**中村 広基** 西尾市民病院臨床検査室  
**松本賞**  
**島 榮** 川崎医科大学附属川崎病院病理部

1. 術中迅速検査の凍結標本形状を維持し、パラフィン永久標本作製する工夫 ーアルギン酸ナトリウムの特性を活用してー

大津赤十字病院 病理診断科部 **大森 康旨 様**

2. 鍍銀反応の時間短縮と安定性の基礎的検討

奈良県立医科大学附属病院 病院病理部 **西川 武 様**

3. コーティングガラスに関する比較検討

神戸大学医学部附属病院 病理部 **今川 奈央子 様**



特別講演

人を育てる –“I am a teacher”という言葉に魅せられて–

滋賀県立成人病センター 総長 **真鍋 俊明 先生**

医療が複雑化し専門化してくると、今度はそれを統合することが求められるようになる。また、医療を動かす作業の中には安全を見越した運用が求められ、その作業工程が機械化されてもくる。そうなると、一人の人や一分野の人達がすべてのことを理解し、行うことは不可能で、異分野の者が集まり協働せざるを得ないし、機械化されるだけでは発展が望めない。チームリーダーとなってまとめる人、専門性が高いが他の分野の知識もあり協調して働ける人材を育成していく必要がある。そして、最も大切なのは、構成各員が自由に発言でき、最終目的に向かって一致協力することのできる志と環境を作ることであると考える。

人材の育成、教育方法の模索は永遠のテーマである。演者は我が国と米国で教育を受け、良い教育を我が国で実践したいと求めてきた。本講演では、演者が影響を受けた人々、彼らの生き方、教育方法を振り返りながら、どのように人を育てていこうとしたか、そこでの良かった点、問題点は何であったかをお話していきたい。最高の教育は日々の生活と仕事の中にある。そして、自分を育てることと他人を育てることは表裏一体である。

真鍋先生のご略歴



まなべ としあき  
**真鍋 俊明 先生** 滋賀県立成人病センター 総長

1971年国立大学法人山口大学医学部卒業。同年よりアメリカ・ハワイ州クアキニ病院にて勤務され、その後同ニューヨーク州アルバート・アインスタイン医科大学を経て、1977年ニューヨーク州ニューヨーク医科大学助教授に就任。同年に帰国され川崎医科大学講師、同助教授を経て1994年教授に就任。2002年に京都大学大学院医学研究科基礎病態学・附属病院病理部教授に就任されました。2010年、滋賀県立成人病センター病理診断科長ならびに同研究所長に就任されるとともに、京都大学名誉教授となりました。2015年1月より現職を務められています。